

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 22 日

事業所名 高槻市立めばえ教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		遊具の配置など、子どもの動きに合わせて、適切なスペースが保てるよう工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		お子さまや保護者の方のニーズに丁寧に対応できるように配置している。	より丁寧な対応を行っていただけるよう、職員の配置を検討する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		視覚的な支援も取り入れ、安全でわかりやすい環境になるように配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		療育の前後に清掃と点検を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員会議や療育の前後に打ち合わせを行っている。	勤務の都合上、出席が難しい職員に対しても検討内容等を共有できるようにする。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年度末にもアンケートを実施、改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に職員研修を行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		発達検査、行動観察、保護者から家庭等での様子を伺い、作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達検査や行動調査票を使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		各項目について、お子さまの様子や保護者の方からのお話をうかがい、支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画を共有するだけでなく、療育後のカンファレンスでお子さまの様子等を確認する機会を設けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		保育士を中心に、各職種からの意見を取り入れて立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		粗大・微細運動、リズム活動、手遊び等、幅広い活動を取り入れている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	○		お子さまの発達状況にあった支援を提供できるように作成している。	
	17	○		毎回、療育前に打ち合わせを行っている。	
	18	○		毎回、療育後にカンファレンスを行い、職員全体で共有している。	
	19	○		毎回、療育後のカンファレンスで支援や療育内容を振り返り、改善につなげている。	
	20	○		お子さまの様子と支援内容を確認し、見直しがある場合は対応している。	
関係機関や保護者との連携	21	○		担当者が参画している。	
	22	○		必要に応じて、関係機関と連携を行っている。	
	23		○		現在、医療的ケアの必要な子どもの利用はないが、必要がある場合は連携を行う。
	24		○		現在、医療的ケアの必要な子どもの利用はないが、必要がある場合は連携を行う。
	25	○		保護者の方からの依頼や必要性に応じて連携を行っている。	
	26		○		2～3歳児を対象としているため行っていないが、必要がある場合には連携を行う。
	27	○		必要に応じて連携を行うことや、療育プログラムに関する研修に参加した。	
	28		○		交流の機会がないため、園庭開放等の情報提供を行っている。
	29		○		現在参加していない。機会があれば会議等へ出席し、よりよい支援につなげたい。
	30	○		療育時や個別面談等を通して、お話をうかがい、共通理解を持てるようにしている。	
31	○		個別面談や保護者グループ懇談時にペアトレの視点をういた支援を行っている。		
32	○		契約会やオリエンテーション時に説明を行っている。		
33	○		お子さまの様子を通して、支援内容をわかりやすく丁寧に説明を行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に相談を行うだけでなく、必要に応じて対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		父母の会は設けていないが、療育時に保護者グループ懇談の時間を設けている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		療育時以外でも、相談が必要な場合には対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行し、療育プログラムや行事予定を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		管理や取扱いについて、十分注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じて対応している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民を招待する機会は設けていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的に避難訓練を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		面接票への記入と看護師より聞き取りを行い、確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		面接票への記入と看護師より聞き取りを行い、確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		全職員で共有し、改善策を検討している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に研修を実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		2～3歳児を対象としているため、計画には記載していない。身体拘束が必要な場合には、個別対応や環境調整を行い、対応する。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。